

HELICSラウンドテーブル ディスカッション概要

7/5/2012

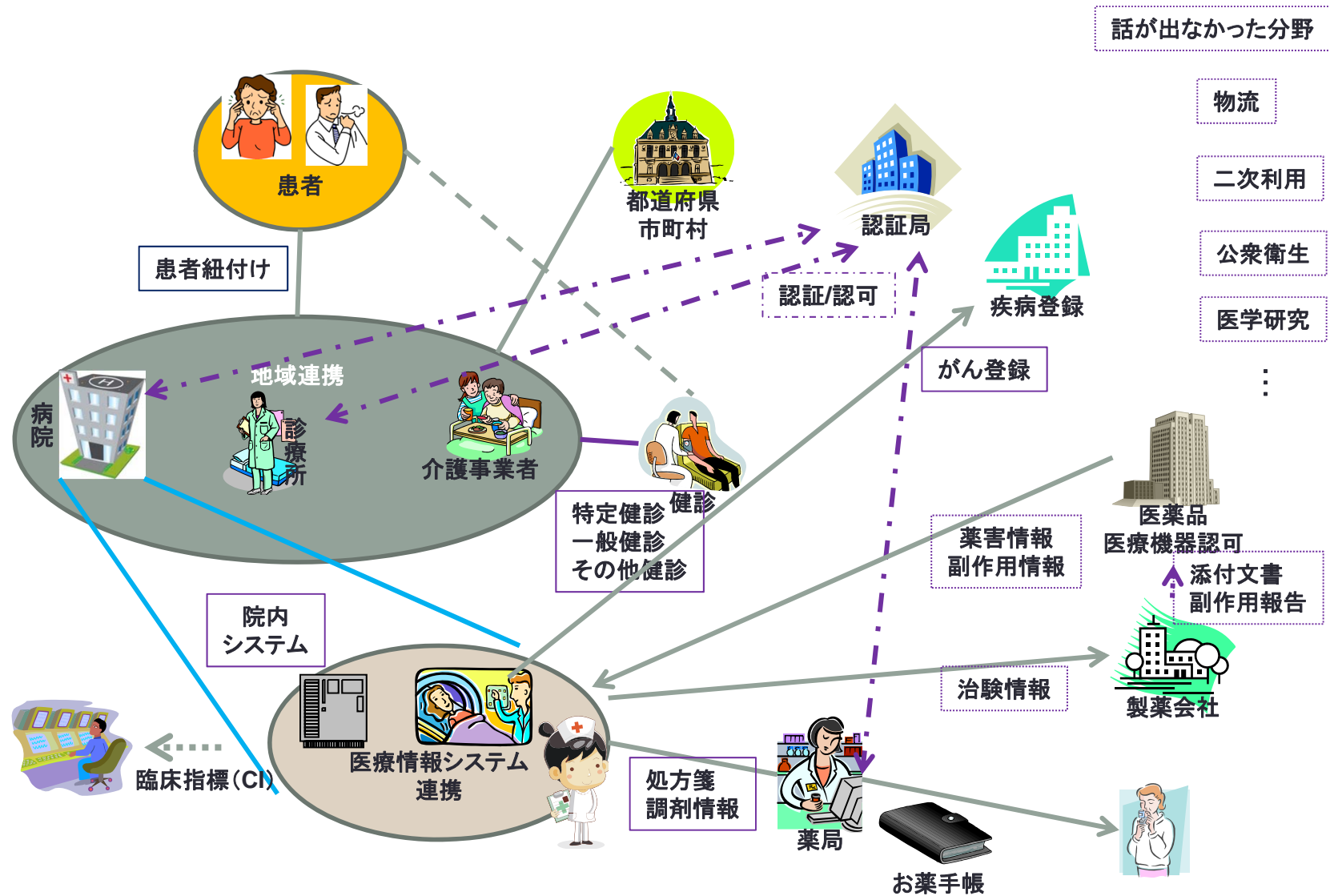
報告者:

HELICS広報委員会 篠田

標準化に係わる ラウンドテーブルディスカッション

- 日時:平成24年4月25日(水)午後1時~5時
- 場所:笹川記念会館5階4, 5会議室
- 司会:大江教授(JAMI、東京大学)
- 参加者:(敬称略)
 - 行政:吉田(総務省)、井上(経産省)、野口(厚労省)、有倉、古市、荒木(内閣官房)
 - 地域連携:松本(長崎大学)、近藤(JAMI、秋田大学)
 - がん登録:西本(国立がん研究センター)
 - 医療情報システム安全管理:山本(JAMI、東京大学)、小林(IPA)、大山(東京工業大学)
 - CI:嶋田(聖路加国際病院)
 - 健診・検診:喜多(JPACS研究会)
 - マスター関連:武隈(MEDIS-DC)
 - 医療情報標準化:貴田、野々村(JAHIS)、小笠原(JSRT、北海道大学)、平井(HL7-J)
 - 薬局分野:河野(日本薬剤師会)
 - 看護分野:松月(日本看護協会)
 - HELICS協議会:安藤(会長)、若松(標準化委員会)、村田、奥田、篠田(広報委員会)、中川、山上、吉田(事務局)

標準化対象の全体像の概略



行政からの要望

- 介護分野
 - 介護情報の標準化: 文書構造、情報交換規格等。ADL評価情報の標準化
 - JAHISで介護事業者間連携のための規格は検討中
- 標準化の推進
 - HELICS協議会の活動に期待
 - 標準化ロードマップの制定
 - 制度的に推進するのは困難。費用も含めてどうすれば進められるか知恵を出す
 - 情報ブローカー(標準的な情報交換を支援するシステム)のようところが欲しい
 - 調剤情報の返信やジェネリックへの変更通知など電子化の意味のある部分からの対応
 - 標準化によるシステムコストの低減

地域連携関連

- 病病連携、病診連携、在宅看護、介護の情報共有を支える標準化
 - 患者の共通ID化を保証し、利用を支援する仕組み
 - 個人認証、認可
 - SS-MIXの拡張、利用の推進
 - 多職種の人々が患者ケアで生成する情報を交換、共有するための情報の標準化
 - カルテ情報、アウトカム、服薬情報、看護記録、介護記録等
 - 連携基盤システム
 - 所見レポートの構造化記述、構成、交換方式等の標準化
 - 長期にわたる経時的変化の共有
- 標準化の推進
 - 標準規格の簡易な解説と理解を深めるために利用できるポータルサイト
 - 成功事例の紹介、標準化されたことのメリット等についての啓発

疫学統計、臨床指標

- がん登録システム
 - がん登録項目の標準化
 - 院内がん登録と地域がん登録のための項目の整合性確保
 - 都道府県への標準登録項目の適用徹底
 - 院外に診療情報を出すことの壁
 - 電子カルテの情報とがん登録情報の乖離
 - 日常診療に必要な情報とがん登録に必要な情報の間の乖離 → 情報手入力の問題
 - データ収集の標準化(検証、匿名化、暗号化など)
 - 疫学情報が簡単に集まる仕組みの必要性(制度、体制)
 - 国際標準との乖離もある
 - HELICS協議会への期待
 - 地域がん登録標準項目の広報。特にベンダーへの

疫学統計、臨床指標(2)

- 臨床指標のためのデータ生成に係わるスキル
 - 構造指標、プロセス指標、アウトカム指標が必要
 - 現在のシステムでの対応は構造指標
 - プロセス指標、アウトカム指標は各施設の力量が必要
 - 一医療機関を超えたデータの必要性 → 慢性疾患等の長期アウトカム指標
 - SS-MIXの中で取り扱う情報
 - 指標解釈の一貫性
- 時間に係わる情報の定義の明確化
 - 時刻の制度にも課題
- レポートに記述されるべき情報の精度
- オブザベーション情報の不足
- 指標の定義を、検索、比較出来る情報とする

医療情報システムの安全管理

- セキュリティ対策、信頼性、品質等の標準化とそれらを評価する仕組み
 - ISO/IEC 80001
- 可用性の確保に向けたHELICS活動の推進
 - より現実に即して、利用される標準とするにはどうすればよいか
 - 何が必要かという議論を行う
- 医療ネットワークのセキュリティ
 - オンデマンドVPNの相互接続性
 - 機器認証鍵の発行
 - ベンダーロックインの問題
 - 業務プロセスの可視化
 - 規格に則った機能のモジュール化の推進

医療情報システムの安全管理(2)

- 個人の認証
 - 医師等資格所有者の登録
 - 属性認証

健診、検診

- 健診情報の標準化
 - CDA R2
- 検診に係わるコードの標準化
 - 労安検診等で利用される項目のコード化

コードの標準化

- コードの整合性 → 二つのマスターを持つコードを一つにまとめる(Ex.薬の製造情報コードとホットコード)
- JLAC10コードの実用化
 - 運用協議会の設立
 - 生理検査への拡張

医療情報標準化、整備

- EHR、PHR等の定義
- 標準化活動の医療以外の分野への拡張（保健、介護、福祉等）
- 標準化のサイクルを回す
 - 標準開発→適用→課題の発掘→標準規格の改善
- 医師等国家資格保持者以外の認証
 - 認証機関
- 医薬品全件マスターの整備等
- 規格間の整合性確保
- 情報コンテンツ、ワークフローの標準化、情報取り扱いの際の概念の標準化（統合プロフィール？）

医療情報標準化、整備(2)

- 標準適用のためのガイド(IHEだけではなく?)
- HELICS標準化ロードマップの整備
- 標準規格のバージョンアップへの対応
- 文書に係わる参照モデルの整備
- 標準利用のコストが懸念される(HL7の場合)
- 国際標準化活動への日本の事情をフィードバック
- 標準適合性の検定
- ユーザ団体への働きかけ

薬局への適用

- 調剤結果の医療機関への戻し
 - 薬局内システムの相互運用性確保
 - 一般名処方と医薬品一般名に対するコード付け
- HPKIの薬局への適用
- 患者への情報提供
 - お薬手帳
- 制度改正への対応
 - JAHISでは、規程を変更し短時間で対応出来るようにしている

看護分野の標準化

- 看護の質、医療の質、労働の質の医療安全に関するデータベース事業
 - 看護必要度
 - 看護分野のQuality Indicator
- 電子カルテの看護現場での利用の課題
 - 情報の確定と修正のタイミング → 看護システムの課題？
 - コード化(看護記録の中で必要なものの)
 - 入力方式(選択で済むところがある)

まとめ

- HELICS標準化マップの整備
 - 何が必要か、どこまで整備されたのかが分かるようにする
 - 我が国の医療情報のあり方はどこを目指すのか？
 - まだ議論されていない分野がある！
- 医療情報の標準の理解、利用の促進
 - 標準化ポータルサイトの開設と運営
 - 標準化に係わる語彙の解説と標準化の現状の解説
 - 現実の情報利用に即した標準化体制の確立
- 標準規格の利用・適用促進
 - HELICSによる広報活動の実施
 - ユーザ団体への働きかけ
 - 標準規格適用プロファイル → 適用ガイド